

令和 6 年度 学校経営環境分析書

和庄中学校区 校番 13 学校名 和庄小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 〈地域環境〉 - 学校周辺に公共施設や歴史・文化施設、商店等が多い。 - 学校周辺に砂防ダム、災害用井戸等がある。 〈教育環境〉 ＊ゲストティーチャー、登校見守り等の学校行事への参加があり、学校支援の体制がある。 ＊PTA活動が活発である。 ＊NIE実践指定校であり、新聞を教材として活用することができる。 〈小中一貫〉 ＊小中一貫が充実し、4校に連携体制が整っている。	S (強み) 〈児童・生徒の実態〉 ＊異学年交流が活発である。 〈教職員集団〉 ＊「チーム」としての意識が高く、協力して教育活動に取り組む。 ＊自分の仕事に責任をもち、やり遂げる教職員が多い。 ＊ICTを効果的に活用した授業づくりが進んでいる。	内部環境
	T (阻害的要因) 〈家庭環境〉 ＊経済的な格差が大きく、困難さを抱える家庭がある。 ＊一部の保護者であるが、対応が長期化したり対応に困難さがあったりする等、外部機関との連携が必要な場合がある。 〈地域環境〉 ＊交通量が多く、登下校時の安全に課題がある。 ＊土石流並びに急傾斜地の特別警戒区域に指定されている箇所が多数ある。 ＊自然体験や運動ができる場所が少ない。 ＊繁華街に隣接している。	W (弱み) 〈児童の実態〉 ＊主体的に行動できる児童・生徒が少ない。 ＊学力差が大きく、学年によっては、基礎学力が定着していない児童がいる。 ＊既習事項を活用して問題解決することに課題がある。 〈学校・教職員〉 ＊学校施設の老朽化が進み、修理修繕が必要な箇所が多い。 ＊運動場が狭い。 ＊教職員は遠距離通勤者が多い。	

＊和庄中学校共通事項

支援的要因と強みを生かした活動・取組は

＊小中一貫教育を推進し、9年間を通して和庄中学校区で設定した資質・能力を育成する。

＊組織として主体的な学びを進め、学力向上を図る。

＊防災教育において、地域の特色を生かしたカリキュラムマップに基づいた実践を行う。

- ＊保護者、地域と連携し、郷土を愛する気持ちを育む。
- ＊ICTを効果的に活用した授業づくりを一層進め、学力向上につなげる。

〈生徒指導の推進〉

- ＊9年間を見通した組織的な生徒指導を行う。
- ＊「和庄中学校区スピリット」の浸透に向けての取組を充実させる。
- ＊教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を構築する。

〈学力向上〉

- ＊和庄中学校区授業モデルによる「考える授業づくり」を行う。

〈体力・運動能力の向上〉

- ＊「メディアコントロール」の取組により基本的生活習慣の定着を図る。
- ＊外遊びや運動の習慣化、体力・運動能力の向上を図る。

〈教職員体制〉

- ＊主任を中心に、一人一人のよさや強みを活かした組織体制を確立する。

阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

2 重点課題

○和庄中学校区で設定した資質・能力を育成する。

- ＊基礎・基本を定着させ、「考える授業づくり」を実施し、思考力・判断力・表現力を育む。
- ＊地域の特色を生かしたカリキュラムマップの実践により、家庭を巻き込む防災教育の深化を図る。
- ＊「和庄中学校スピリット」に基づく児童を育成する。
- ＊基本的生活習慣の確立や体力・運動能力向上を図る。